

令和 6 年度 綾瀬市立綾瀬中学校 学校関係者評価報告書

<p>綾瀬市教育委員会の基本方針</p>	<p>(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども</p>
<p>学校教育目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学びを生かす人 ・ 共に生きる人 ・ 健やかな人
<p>学校経営方針 (グランドデザイン)</p>	
<p>今年度の重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 確かな学力と自立する力の育成 2) 健康で心豊かな生徒の育成 3) 地域に開かれた質の高い教育の推進

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「学びを生かす人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	<p>生徒の9割が肯定的な回答でした。これは昨年度より10ポイントも向上しています。また保護者も6ポイント向上しています。全教職員で同じ取組をした結果、生徒がどの授業に対してもルーティンとしてとらえることができたからだと考えます。</p> <p>さらに、少人数授業や放課後の学習会の開設などで、一人ひとりの課題の克服にも力を入れてきた成果と考えられます。</p>
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	<p>9割以上の生徒と保護者が肯定的な回答をしています。このことから学校行事や部活動に対して意欲的に取り組んでいる様子がうかがえます。これは、生徒の主体性を重視し、目的意識を全教職員がしっかりと持って指導している成果と考えられます。保護者の方も学校行事や部活動に対してサポートしてくださり、学校の取組に対する協力と理解が深いと考えます。今後も、生徒が主体的に取り組むことができる行事の運営を目標としていきます。また、自己有用感や達成感を味わえるような活動の支援を心がけていきます。</p>
3 児童・生徒指導	学校は、「共に生きる人」を育てる指導を積極的に行っている。	<p>9割以上の生徒が「思いやりの気持ちをもって接している」と回答しています。また教職員も同様に「良好な人間関係作り」に努めていると回答しています。一昨年度、昨年度から引き続き、保護者も9割以上が「お子さんが、思いやりの気持ちをもって接している」と回答しています。本校生徒の素直で心やさしい気質は、教職員、生徒、保護者の人間関係にも支えられていると考えられます。</p> <p>今後も生徒との良好な人間関係作りを意識し、道徳教育や読書活動の推進に努めるとともに、保護者と教職員が生徒の健全育成に向けた活動を通して、心の育成を図っていきます。</p>
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	<p>約9割の生徒が「学校生活が楽しい」と回答しており、学校生活にほぼ満足している様子がうかがえます。これは、普段の授業やクラス活動、また、学校行事や部活動、委員会活動など個々の生徒が活躍できる場があり、それが充実感や満足感につながっているためと思われます。また、書籍が充実している学校図書館やグラウンド、教室など、安心して休み時間を過ごせる場所があることも、楽しさにつながっていると思われます。併せて、教職員が生徒一人ひとりのさまざまな課題に丁寧に対応した成果とも考えられます。</p> <p>一方、人間関係や学習面、生活面などに課題や不安を抱え、学校に来にくくなる生徒が一定数いることにも留意し、対応していく必要があります。</p> <p>今後も月末のスクールアンケート、教育相談等、生徒理解に向けた相談活動を継続して行うとともに、学級活動における意欲や満足感が高まるようにソーシャルスキルの向上を図っていきます。また、校内の学習支援ルームの活用や校外にある教育支援教室（ルピナス）と密に連携を取りながら、全ての生徒が安心して学校生活を送れるように支援していきます。</p>

<p>5 児童・生徒指導</p>	<p>学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。</p>	<p>「そう思う」「ややそう思う」という保護者からの回答が占める割合が、約7割でした。ほとんどの教職員が取組を行っているという回答に対し、「あまり思わない」「思わない」という保護者からの回答が3割あることを受け止め、「いじめゼロ」を目指し、改めて全教職員でいじめの早期発見・再発防止の取組を徹底していくと同時に、保護者から見たときに、どのような点が「そう思わない」につながっているのかを検証する必要があると感じました。</p> <p>学校が行っている具体的な取組として、月末のスクールアンケートで生徒の状況を把握し、いじめがあった場合は速やかに聞き取りを行いチームで対応していきます。情報モラル講演会の開催など、SNSが起因するいじめ等の未然防止にも力を入れるとともに、いじめ発生後の指導と見守りを大切にします。併せて、部活動や学級活動で、いじめ防止三カ条の作成、道徳科の時間では生徒の心の教育に努め、一人ひとりが人権を大切に作る学校・学級づくりを目指した指導に努めていきます。</p> <p>加えて、日ごろからご家庭と学校とで情報共有を行い、より連携した対応ができるよう心掛けていきます。</p>
<p>6 保健管理</p>	<p>学校は、「健やかな人」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>約8割の生徒が、「健康や体力に関心を持って生活している」と回答しています。教職員も9割以上が肯定的な回答であり、生徒の姿に反映されているのではないかと考えられます。しかし保護者は「そう思う」「ややそう思うの」回答を合わせても7割と、若干低いことが気になります。部活動の制限や外で遊ぶ機会が減っていることなどや、スマートフォンの利用時間が長く、睡眠時間に影響を及ぼしていること等が影響していると考えられます。綾瀬中学校では「スマートホンの利用は夜9時まで」を合言葉に、生徒に呼びかけています。今後も、生徒の心と身体の成長にむけたきめ細かい支援を行い、より一層指導の充実を図りながら、生徒が健康に学校生活を過ごせるように努めていきます。</p>
<p>7 安全管理、教育環境整備</p>	<p>学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。</p>	<p>教職員のアンケートを見ると、「生徒の安全を意識して教育活動を行っているか」という項目に対して、令和3年度以降毎年全員が「そう思う」「ややそう思う」と回答しており、日頃から教職員が安全に対して高い意識を持って教育活動に取り組んでいることがわかります。また、9割以上の教職員が施設の点検・整備にも努めています。</p> <p>今後も、地震・天候災害等を想定し、自ら考えて行動できる防災教育を計画的に実施し、生徒・教職員の災害時の対応に向けた意識をさらに高め、教育活動、施設の点検・整備を進めていきます。併せて救命処置の研修を教職員だけでなく、部活動代表生徒などにも実施しており、生徒の安全に努めていきます。</p>

8 支援教育	<p>学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。</p>	<p>すべての教職員が個に応じた支援の工夫をしていると回答しています。</p> <p>しかし、個々の生徒への対応が増え、ニーズに応じた支援が追い付いていないと感じる場面が少なからずありました。</p> <p>今後も、教職員の共通理解のもと、生徒一人ひとりの課題や教育的ニーズに応じた支援が強化できるように、学習支援ルームの活用や教職員による教室での支援や巡回等、校内の支援体制の整備に努めていきます。</p> <p>また、保護者との強固な信頼関係を築くとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用や相談機関とも連携を図り、より充実した生徒支援に取り組んでいきます。</p>
9 組織運営	<p>校長を中心とした運営組織になっている。</p>	<p>全教職員が「そう思う」「ややそう思う」と回答しています。また、「学校運営に職員の意見が十分に反映されているか」という質問に対しては、令和4年度以降、肯定的な意見が年々増加しており、今年度は9割後半となっています。校長の学校経営方針を理解し、総括教諭がグループメンバーの意見を吸い上げ、昨年度の反省や意見を反映しながら、各グループが連携して所掌事項を遂行してきた結果と考えられます。</p> <p>今後も、学校運営組織がより機能するように、建設的に評価・見直しを行い、連携・協働して業務が遂行できるように意識の向上を図っていきます。経験の浅い教職員の育成も校内で図り、学校運営を強化していきます。</p>
10 教職員の研修	<p>学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。</p>	<p>「指導力向上・授業改善にむけた校内研究」への取組対し、「そう思う」と回答した教員は令和4年度以降年々増加しており、5割を上回っています。「教師の力量を高めるための研修」への取組についても、令和4年度以降年々増加しており、今年度は肯定的な回答が8割を超えています。また、校外やWebで行われる研修に積極的に参加している教員も多くいます。</p> <p>今後も、校内研究を通して指導力向上・授業改善にむけた取組を推進していきます。また、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していきます。</p>
11 教育目標・学校評価	<p>学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。</p>	<p>これまでも教職員が、学校教育目標や学校グランドデザインで示された生徒像を目指して、教育活動を行ってきました。不十分と考えている教職員もいるので100%になるように徹底していきたいと考えます。今一度グランドデザインを全教職員が読み込み、理解を深めていきます。</p>

<p>12 情報提供、保護者・地域住民との連携</p>	<p>学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。</p>	<p>肯定的回答が8割を超えています。学校情報配信システムは欠席連絡の用途もあるため、多くの保護者がスマートフォン等にインストールしていますので、保護者に学校の様子がより伝わることになったと考えられます。今後も保護者にとって必要な情報、学校行事での生徒の様子を学校だより、学年だより等で適宜発信し、懇談会や保護者全体会等を通して生徒の様子や課題などを伝え、学校からの情報を家庭に届けていきます。地域に対しては学校ホームページを通じて学校の情報をお知らせし、地域の方々の協力を得ながら学校運営をしていけるよう努めていきます。</p>
<p>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目4「生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。」について、約9割の生徒が肯定的な回答をしており、学校生活に満足している様子が伺える。一方で不登校支援等個々の生徒のニーズが細分化されているようなので、学校運営協議会でもサポートしていける体制を築いていきたい。 ・項目5「学校はいじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。」について、保護者の3割は肯定的に思っていないという結果になっている。なぜ、そう感じているのかという所までは今回の調査でははっきりしないのでそこが検証できるようにしていただきたい。いじめ防止基本方針はもっとアピールして啓発をしていかなければならないと感じる。 ・項目11「学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。」について、学校教育目標及び学校グランドデザインについて「知っている」「なんとなく知っている」と回答した保護者は約4割となっている。前述と同様に啓発の必要性を感じる。面談等の来校の際にコミュニケーションだけでなく、学校教育目標及び学校グランドデザインを見てもらうための機会を作って保護者の意識付けをお願いしたい。 		